

項目	入力欄	入力の際の注意
科目名	教養演習	必須
教員名	垣見隆禎	必須
授業概要とねらい	<p>「翻訳語」で考える日本の「近代」 【概要】今春、晴れて大学生となられた皆さんは、受験勉強で英語の勉強をする際には、societyという単語にはほぼ迷うことなく「社会」という訳語を充ててきたことと思います。さらに、individualというのが出てきたら、これまた即座に「個人」というように暗記してきたでしょう。しかし、これらの単語に上記のような訳語が定着し、当たり前に使われるようになる過程では、幕末・明治の先達は、並々ならぬ苦勞と試行錯誤を重ねてきたのです。その中では、現在から見れば、滑稽とさえ言えるような訳語が作られたりもしました。</p> <p>それはなぜか、開国によって西洋の文物が洪水のように日本に流入して来るまでは、つまり江戸時代には(ひょっとすると現在でも)societyやindividualに対応するような「社会」も「個人」も日本には「存在」しなかったからです。このような例は、私達が日常何気なく用いている言葉、例えば「恋愛」とか2行前に使った「存在」、さらには本学部の名称にも使われている「行政」などについてもあてはまります。他に、以前からあった言葉の中でも、翻訳のために用いられる中で新しい意味を担うようになった言葉もあります(「権利」の「権」や「自由」、「自然」など)。こうした言葉を総称して「翻訳語」と言います。</p> <p>本演習では、上記のような「翻訳語」が幕末から明治時代の知識人たちの苦闘の中から生み出されてきた過程を辿ることで、突如として欧米文明を摂取することを余儀なくされた日本人の戸惑いや試行錯誤を追体験することを目的とします。同時に西洋文明と日本文化の相違などについて考えていきたいと思ひます。さらに、物事をその成立の起源にまでさかのぼって「批判的」に考察するという習慣を身につけてほしいと思ひます。</p>	<p>必須 全角300字以内</p> <p>セル内で改行する場合は、「Altキー」を押しながら、「Enterキー」を押してください。</p>
望ましい水準	<p>「翻訳語」が急速に日本社会に浸透した時代背景を理解できている。 個々の「翻訳語」の成立、定着の経緯に即して、日本人のものの考え方や欧米人とのその異同について考察できる。 「翻訳語」の功罪について自己の考えをまとめて説明できる。</p>	<p>必須 全角200字以内</p> <p>セル内で改行する場合は、「Altキー」を押しながら、「Enterキー」を押してください。</p>
授業計画	<p>参加者の人数によって演習の運営の仕方は異なってくるので、現段階で15回目まで確定するなどということができようはずがない 第1回 演習の進め方についてのガイダンス 第2回 テキストに沿って分担当所を決め、各自がテキストの内容を報告し、それに基づいて質問・応答を行う。場合によっては、質問の内容に答えるためにさらに関連文献を調べていくという形で進めていきたいと思ひます。前期で使用テキストを読んだ後、後期にどのように進めるかは参加者と相談の上で決定します。</p> <p>最初は柳文「章」『翻訳語成立事情』を使用します。吉田裕清『翻訳語としての日本の法律用語』(中央大学出版部)を一部併用するかもし</p>	<p>必須 15回分記載してください</p> <p>セル内で改行する場合は、「Altキー」を押しながら、「Enterキー」を押してください。</p>
教材・教科書	最初	全角200字以内
参考図書		全角200字以内
参考URL		半角100字以内
授業以外の学習	夏休みの宿題レポート。その他、毎回の発表で扱われる章を事前に読み、質問事項を考えてくること。	<p>必須 全角300字以内</p> <p>セル内で改行する場合は、「Altキー」を押しながら、「Enterキー」を押してください。</p>
成績評価の方法	演習への出席や発表、課題レポート(前期・後期それぞれ1回ずつ予定)の提出などを総合して行います。	<p>必須 全角300字以内</p> <p>セル内で改行する場合は、「Altキー」を押しながら、「Enterキー」を押してください。</p>
成績評価の基準	評価基準は、以下のとおり。A:望ましい水準の すべてにおいて高い水準(100~90点)を獲得した場合 B:望ましい水準の において高い水準(89~75点)を獲得した場合 C:高い水準には達していないが すべてにおいて一定の水準(74~60点)を獲得した場合 D:いくつかの項目において未達成(59~50点)である場合	<p>必須 全角300字以内</p> <p>セル内で改行する場合は、「Altキー」を押しながら、「Enterキー」を押してください。</p>
オフィスアワー	下記アドレスにメールをもらえれば随時相談の上設定します	<p>必須 全角100字以内</p>
留意点・注意事項	研究室: 行政政策学類棟8階811号室 TEL: 024-548-8321 メール: a001@ipc.fukushima-u.ac.jp(演習参加者全員のメーリングリストを作る予定です)	全角100字以内
その他		全角100字以内
ディプロマポリシー大区分1	行政政策学類のディプロマポリシー	<p>必須</p> <p>ディプロマポリシーはプルダウンで選択してください。(セル右側の をクリック) 大区分を選択するとそれに対応する小区分が選択できるようになります。 大区分と小区分をセットで1つ以上選択してください。</p>
ディプロマポリシー小区分1		
ディプロマポリシー大区分2		
ディプロマポリシー小区分2		
ディプロマポリシー大区分3		
ディプロマポリシー小区分3		
ディプロマポリシー大区分4		
ディプロマポリシー小区分4		
ディプロマポリシー大区分5		
ディプロマポリシー小区分5		
ディプロマポリシー大区分6		
ディプロマポリシー小区分6		
ディプロマポリシー大区分7		
ディプロマポリシー小区分7		
ディプロマポリシー大区分8		
ディプロマポリシー小区分8		
ディプロマポリシー大区分9		
ディプロマポリシー小区分9		
ディプロマポリシー大区分10		
ディプロマポリシー小区分10		
ディプロマポリシーその他		